■西部子ども家庭支援センター・教育センター

〈 施設面積 〉

西部子ども家庭支援センター	550 ㎡
教育センター（教育相談）	250 ㎡
共用事務室・面談室	1,200 ㎡
6・7 階　計	2,000 ㎡

※現在の施設面積の約 1.6 倍（1,200 ㎡→2,000 ㎡）

〈 新たな特徴 〉

❶併設された両センターがフロアを共有することで、乳幼児期から１８歳までの切れ目のない支援が実現され、乳幼児期から通い慣れた施設での継続相談が可能となります。

❷共通の受付や事務室などの共用化を図ることにより、きめ細かな情報共有や綿密な連携体制を促進します。

❸面談室、個別相談室の拡充とシェアリングによる弾力的な運用により、増加している新規・継続相談に対応します。

❹学校とシェアするプールや屋上テラスに加え、隣接する緑地公園を活用した屋外活動を展開します。

❺バリアフリー対応の施設とすることで、在宅の医療的ケア児等の一時保育利用を可能にし、医療的ケア児等とその家族への支援を実施します。

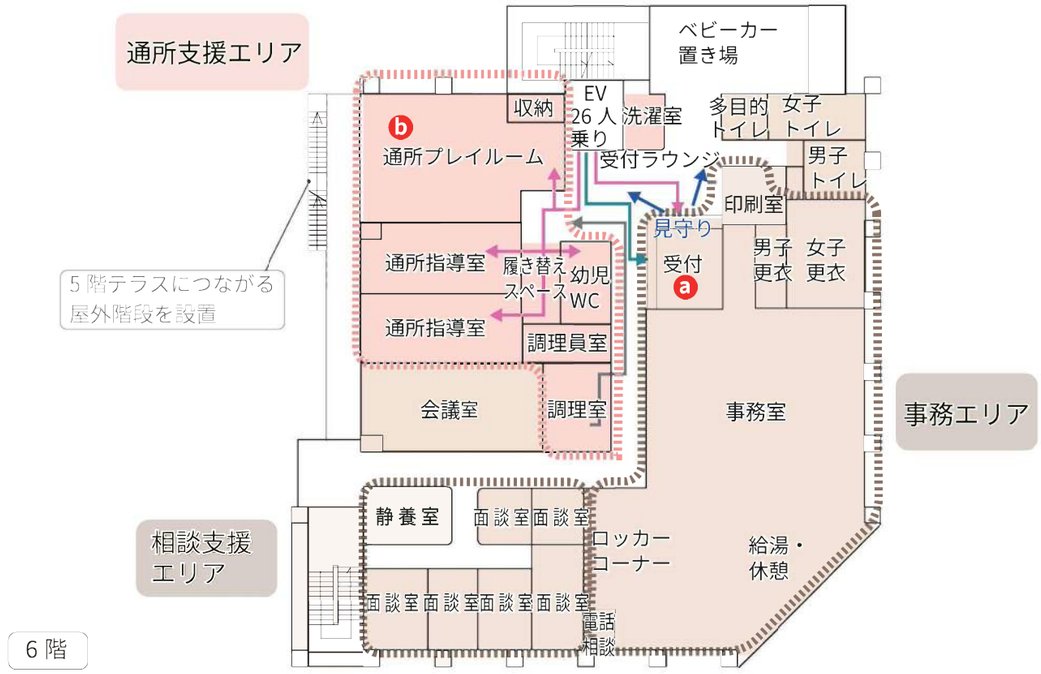
❻児童発達支援センターを見据えた設備や機能を配置し、更なる支援を充実させた新たな子育て支援の拠点を目指します。

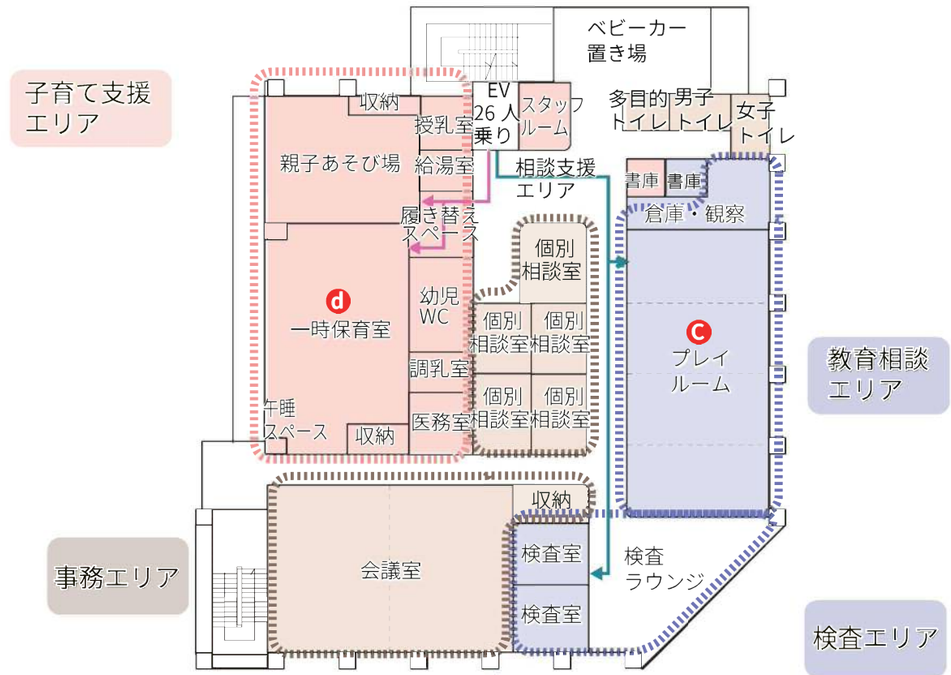
用途凡例

- ：子ども家庭支援センター
- ：教育センター
- ：子ども家庭支援センター・教育センター共有諸室

動線凡例

- ：子ども家庭支援センター
- ：教育センター
- ：サービス





a 子ども家庭支援センター・教育センター 受付　イメージ

b 子ども家庭支援センター 通所プレイルーム　イメージ

c 教育センター プレイルーム　イメージ

d 子ども家庭支援センター 一時保育室　イメージ

※パースはイメージであり、今後変更の可能性がございます。